

No.	Page	セクション	変更箇所
1	0	表紙裏	はじめに の後に (案) を追加
2	2	第1章>2プランの位置づけ	策定にあたっては、本市最上位計画である「第六次栗東市総合計画」をはじめ本市の関連する各種計画との整合を図ります。 の下に相関図を挿入
3	3	第2章>前文	3行目 これまでの施策について の後に 取組実績・アンケート・各種公的調査結果等をもとに を追加
4	4	第2章>基本目標2>課題	3つ目の● 取組み継続が必要です。 の下に なお、本市における30～39歳の労働力率は、全国や滋賀県より大幅に低い水準となっています（令和2年国勢調査より。22ページを参照）。 を追加
5	4	第2章>基本目標3>成果	地区別懇談会（現：じんけんミーティング）を じんけんミーティング（旧：地区別懇談会）に変更
6	4	脚注	3 労働力率 15歳以上人口に占める労働力人口（就業者と完全失業者の合計）の割合を追加
7	5	第2章>基本目標4>課題	1つめの● 下回りました。 を 下回っており、健康づくりに向けた支援の継続が必要です。 に変更
8	5	第2章>基本目標4>課題	2つめの● 本市におけるDV相談件数が横ばい傾向であり、引き続きDV撲滅にむけた取組みが必要です。 を削除
9	5	第2章>基本目標5>課題	1つめの● 下回りました。 を 下回っており、引き続き審議会等委員への女性参画に向けた働きかけが必要です。 に変更
10	5	第2章>基本目標5>課題	2つめの● 下回りました。 を 下回っており、アンコンシャス・バイアスの解消にむけた積極的な情報発信や啓発等が必要です。 に変更
11	6	QRコードの下	国際女性デーに関するトピックを削除
12	7	第3章>前文	今回プランでは、前プランの課題を踏まえ、ジェンダー平等意識を更に進め、実質的なジェンダー平等の実現にむけ取り組んでいきます。 ↓ 前プランの施策評価のなかで、栗東市男女共同参画都市宣言の認知率低下、無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）が残っている、育児期の女性就業率や女性管理職比率が男性に比べ低い、といった課題がみえてきました。 今回プランでは、上記課題の解決にむけ取組みを進めていきます。 取組みの実効性を高めるために新規の取組みも追加していますが、課題の根本的解決には長年培われてきた固定観念や慣習に対する意識改革等の中長期的な取組み継続と、社会環境の変化にあわせて適宜施策の見直しを行う必要があります。 に変更
13	7	第3章>2全体を通じた->3	3.健康と心身の幸福（ウェルビーイング）>2段落目 女性のウェルビーイング向上、女性の多様な生き方を受容できる社会づくり、女性を取り巻く環境の改善を通じ、誰もが「暮らしたい」「暮らし続けたい」と思う、ウェルビーイングなまちを目指しています。 ↓ 誰もが等しくウェルビーイング向上できるまちをつくることは、栗東に「暮らしたい」「暮らし続けたい」と思える人が増えることにつながります。 に変更
14	8	第3章>3基本目標>2	じぶんらしく を 自分らしく に変更 (pp.9-10>施策体系のフラグ、p.15の標題、概要版の表示も更新)

No.	Page	セクション	変更箇所
15	8	第3章>3基本目標>2	性別や性の意識にとらわれず、一人ひとりが持つ個性や能力を十分に発揮できる社会をめざします。誰もが自分らしく希望をもって活躍できるよう、 ↓ 女性の労働力率1は増加傾向にありますが、キャリアが妊娠・出産・育児等のライフステージに影響を受けている女性がまだまだ多い可能性があります。 ワーク・ライフ・バランスの推進や多様な働き方ができる環境づくり等を通じて、誰もが自分らしく希望をもって活躍できるよう、に変更
16	8	脚注	労働力率 15歳以上人口に占める労働力人口（就業者と完全失業者の合計）の割合。栗東市の現状は、第6章 1「統計資料からみる本市の現状」を参照。 を追加
17	9	第3章>4施策体系	余白部分のイラストを削除 (その他のイラストも併せて削除)
18	10	第3章>4施策体系	余白のイラスト部分を下記文言に差し替え 以上の施策のうち、次の2つを今回プランで特に重点的に取組む項目（重点施策）に設定します。 重点施策1：基本目標2-(1) ワーク・ライフ・バランスの推進 重点施策2：基本目標2-(3) 女性が多様なキャリアやライフプランを選択できる社会づくり 女性の年収が男性に比べて少ない <sup>1</sup> 傾向があること、正社員の割合が男性に比べて少ない <sup>2</sup> ことから、家事・育児・介護の負担が女性のキャリアに影響を与えています。 女性の就業率向上およびワーク・ライフ・バランス向上への取組みを通じて、女性活躍・女性の自己実現、ひいては市民全体の活力向上や子育て世代の定住促進につなげていくことを目指すものです。 男女共同参画が進んだまち＝だれもが暮らしたい、暮らし続けたいと思えるまち
19	10	脚注	1 国税庁の「令和5年分民間給与実態統計調査」によると、給与所得者の平均給与は男性569万円、女性316万円となっている。 2 令和6年度の市民アンケートのなかで、40代、50代の女性正社員率が男性の半分以下との結果が出ている。 を追加
20	11	第3章>5指標設定	No.5の単位 「人」 を追加
21	11	第3章>5指標設定	No.12>重点施策 (1) から (3) に変更
22	11	第3章>5指標設定	項目 基準値R6 を 実績値R6 に変更 (p.12も同様)
23	12	第3章>5指標設定	No.27・30・33 新規追加
24	12	第3章>5指標設定	No.22の単位 「時間」 を追加
25	13	第4章>基本目標1>(1)>①	取組み項目の1番目に下記取組みを追加 あらゆる機会を通じた「男女共同参画宣言」の積極的周知（自治振興課）
26	14	第4章>基本目標1>(3)>②	取組み項目の1番目に下記取組みを追加 男女共同参画に関する活動を行う人材・団体の育成、活動支援（自治振興課、生涯学習課）

No.	Page	セクション	変更箇所
27	15	第4章>基本目標2>前文	<p>ワーク・ライフ・バランスは、健康と心身の幸福（ウェルビーイング）の実現につながります。家庭や職場におけるワーク・ライフ・バランスの推進にむけた情報発信や啓発を行っていきます。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>ワーク・ライフ・バランスが向上することで、家族との時間、地域活動や趣味などに関わる余裕を生み出します。</p> <p>ワーク・ライフ・バランスが向上するには、育児・介護支援の充実や男性の家事・育児・介護等への参画促進など、働くことを希望する全ての人が働きやすい、働き続けられるための環境づくりが重要です。</p> <p>より多くの市民がワーク・ライフ・バランスの重要性を認識し実現にむけた意識づけや取組みにつなげられるよう、情報発信や啓発を積極的に行っていきます。</p> <p style="text-align: center;">に変更</p>
28	16	第4章>基本目標2>(3)>前文	<p>環境づくり」が挙げられています。 の下に</p> <p>また、多様なキャリアやライフプランを選択できる環境をつくることは、働くことを希望するすべての女性が働き方やライフプランの選択肢拡充ももたらし、女性が自分らしく活躍できる社会の実現にもつながります。</p> <p>多様なキャリアを選択できる社会づくりが進み、性別や性の意識にかかわらずだれもが自分らしく活躍できるまちになれば、「住みたい」「住み続けたい」と思える市民が増えることが期待されます。</p> <p style="text-align: center;">を追加</p>
29	18	第4章>基本目標3>(1)>②	3つめの◇ DV 被害者を守るための を削除
30	20	第5章>2進捗管理	<p>1段落目 各課が実施する男女共同参画関連事業について毎年調査を行います。 から</p> <p>下記の方法によりPDCA サイクルの確保に努めます。 に変更</p> <p>2-4段落目は箇条書き表示に変更</p>
31	27	第6章>4栗東市男女共同参画社会づくり推進協議会 委員名簿	栗東市男女共同参画社会づくり推進協議会 の後ろに 設置 を追加
32	27	第6章>3栗東市の取組	令和8（2026）の取組内容 第7版」 の後に （案） を追加